



綴プロジェクト作品 雲龍図襖 うんりゅうずぬすま
海北友松 筆 寄贈先：大本山 建仁寺 原本所蔵：大本山 建仁寺

公開情報
綴プロジェクト作品・雲龍図襖が建仁寺にて公開中です。



詳細は、公式サイト
でご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品35作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術により身近に接する機会を提供しています。

阿吽の双龍。無双の迫力。
建仁寺方丈を訪れた人が最初に通される部屋、通称「礼の間」に、「雲龍図襖」はある。黒雲の中から現れた阿吽の二匹の龍が、少し不気味で威圧的な存在感を持って見る者に迫ってくる。口を開き咆哮する右側の龍は、雲を巻き上げながら勢い良く空を飛び、口を閉じてこちらを睨む左側の龍は、激しく渦巻く暗雲を分けて姿を現す。重厚でスピード感ある筆さばきで、大画面に描き尽くされた本作品は、海北友松の代表作と言えよう。
一九三四年、建仁寺方丈は、台風によって倒壊してしまいましたが、「雲龍図襖」は、奇跡的に難を逃れました。その後、原本は、建仁寺に戻ることとはなく、京都国立博物館に保管されています。二〇〇九年、綴プロジェクトは、「雲龍図襖」の高精細複製品を制作し、建仁寺に寄贈、元あった場所で一般公開を可能にしました。安住の地、建仁寺に舞い戻った二匹の龍は、これからも多くの人々を魅了していくことでしょう。
日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

日本の美を継承していくために

Vol.5

綴プロジェクト作品（高精細複製品）

◆重要文化財◆

「雲龍図襖」 海北友松 筆

綴TSUZURI
文化財未来継承プロジェクト

Canon